

低炭素技術の橋渡し - Bridging low-carbon technologies

低炭素への移行を推進している資本財（Capital Goods）企業はどこか？

エグゼクティブ・サマリー

2018年7月



フルレポートへのアクセス

CDPの署名投資家およびメンバー投資家は、<https://www.cdp.net/en/dashboards/investor>からフルレポートを入手することができます。ログインできない場合は、CDPアカウントマネージャーまたはinvestor@cdp.netに連絡してください。

本レポートは、投資家向けのセクターリサーチシリーズの一環として、CDPインベスターリサーチチームが独自に作成したものです。CDPの投資家向けのセクターレポートは、最も包括的な気候および水に関連するデータと市場の分析を提供しています。Extel IRR調査は、2017年CDPを3年連続して気候変動研究のナンバーワンにランク付けし、Investment Week誌は、2016年と2017年にベストSRIリサーチを受賞しました。

CDPのセクターリサーチシリーズは気候変動への影響度の大きい産業を一つ一つ深く分析しています。現在、自動車、電力、総合化学、多角化した鉱業、セメント、鉄鋼、ならびに石油およびガスに関するレポートを提供しています。フルレポートは、オンラインのインベスター・ダッシュボードを通じて、CDPの署名投資家とメンバー投資家に提供され、その中には、詳細な分析、企業の洞察、方法論を含みます。

また、各メンバー投資家は、インベスターリサーチチーム内のアナリストおよびGHG排出データセット全体へ優先的にアクセス可能です。CDPの署名投資家あるいはメンバー投資家となり、フルレポートや、CDP企業公開データなどその他ツールへアクセスをご希望の方はinvestor@cdp.netまでご連絡ください。

本レポートはCDPによる原題「Bridging low-carbon technologies」を翻訳したものです。日本語版および英語版で内容に相違が生じている場合には、英語版の内容が優先します。

詳細については、以下のリンクをご覧ください。

<https://www.cdp.net/en/investor/sector-research>

<https://www.cdp.net/en/dashboards/investor>

著者:Carole
Ferguson
Marco Kisic
Kane Marcell
Tom Crocker

Acknowledgements:

Christie Clarke
James Smyth
Luke Fletcher

気候関連指標と資本財セクターの収益を結びつける

本レポートは、CDPによる資本財（Capital Goods）セクターに関する最初のレポートである。低炭素経済移行に向けて、いかに事業の準備が整っているかに関し、上場している大手資本財セクター22社をランク付けした。これら企業はセクター内の3つのサブカテゴリーに分類される。

△ 電気設備

△ 事業コングロマリット

△ 重機

グローバルに上場している資本財企業のうち、時価総額ベースで約22%をカバーしている。これらの企業は、新興国市場における成長分野を含むすべての地域で事業活動を行っている。

資本財セクターは、直接排出(スコープ1)や、エネルギー使用(スコープ2)からの間接的排出が高いセクターではない。むしろ、自動車セクターと同様に、スコープ3排出量の中でも「販売製品の使用」の排出量が極めて重要なセクターである。当セクターが主要な脱炭素の役割を果たすためには、この排出量原単位を測定し、削減目標を設定する必要がある。

資本財セクターは、発電、建材、輸送、産業、家電といった主要な高排出事業向けに、製品、プロセス、技術を提供している。

セクターが提供するすべての最終市場は、建設および設置の標準から、発電のための義務付けられた技術まで、規制および脱炭素ターゲットの強化に直面している。

これは、当セクターが、最終市場の排出量プロファイルを変更するために、電化、デジタル化、および自動化に技術を向けることが重要であることを意味する。電化に特化したビジネスモデルを持つ企業は、パリ協定で設定された「ターゲット(定量的目標)」を満たす動きから利益を享受し続けるはずである。

リーグテーブルでは以下の3つの主要な分野が評価されている。これらは、G20金融安定化理事会の気候関連財務的情報開示に関するタスクフォース（TCFD）の提言と一致している。

移行リスク:当レポートでは、企業の情報開示とスコープ3の排出原単位、製造過程での排出量、および事業レジリエンスを評価する。

移行機会:脱炭素化テーマに対する重要な収益ポテンシャルや、漸進的変化と変革的変化に合わせた差別化モデルを利用できるかについて、企業のポジショニングを評価する。

気候ガバナンスと戦略:排出量削減ターゲット(定量的目標)を含む企業のガバナンスの枠組み、並びにガバナンスと報酬構造の低炭素目標との整合性を分析する。

重要所見

- **バリューチェーンにおける排出量は、セクターにとっての鍵:** 排出量の90%以上、および販売製品の使用の大部分はスコープ3である。
- **スコープ3排出量の情報開示とマネジメントは、自動車セクターより低く、遅れている:** 自動車セクターはスコープ3排出量(保有車両排出量)が直接的に規制されている。
- **32%の企業が「スコープ3」の排出削減ターゲット(定量的目標)を持っている:** 自動車セクターは81%。
- **スコープ1+2の排出量原単位は、2012~17年にわたって横ばい:** しかし、比較的低水準である。
- **低炭素技術に基づいて、当セクターはかなりの収入機会を得ることができる:** 低炭素エコノミーへの移行はメガトレンド化している。
- **セクターにおける最大の機会は、電化にある:** マイクログリッド、エネルギー貯蔵、分散型再生可能発電、および急速に成長するとみられる最終市場との接続性に関連した製品に対応。
- **多くの企業は、デジタル化プラットフォームによって、抜本的かつ変革的な製品や、ソリューション(ハードウェアやソフトウェア)を持っている:** その中には、計測器ソリューションや精密農業の背後にあるスマートテクノロジーを含む。
- **自動化は、セクターにとって、エネルギー効率を含む産業効率を推進するもう1つの大きな機会である:** ただ、産業に脱炭素化するための変革をもたらす訳ではない。
- **売上高に占める研究開発費の割合は、他の産業セクターに比べ3.5%と高く自動車セクターに近い:** いずれもテクノロジーに牽引されるセクターである。
- **低炭素化により収益の恩恵を受けるセクターにしては、取締役レベルの気象専門知識は低い。**
- **当セクターは、スコープ3の排出量に対して直接的に規制されていない:** むしろ、規制上のプレッシャーは、電力、運輸、建築物を含む主要な産業セクターにおける最終市場にかかるものであり、それらはすべて炭素排出量が多い。
- **プロダクトサイクルが短く、利益率が高い事業が最もレジリエント:** 電機サブセクターがこの傾向に対し良い位置にある。
- **電機設備部門でトップランクの企業:** シュナイダー・エレクトリック、三菱電機、ABB。
- **産業コングロマリットにおいて最高ランク:** Vestas、Siemens、およびHoneywell。
- **重機械業界で最上位の企業:** CNHインダストリアル、クボタ工業、日立建機。

下記の成績対比一覧表は各社に対する主な調査結果を示している。本調査は炭素関係や移行に関する広範な指標を対象とした詳細にわたる分析に基づいており、企業の業績に無視できない影響を与える可能性がある。成績対比一覧表は、新規技術がセクターに革命的变化をもたらし、各政府がパリ協定の導入に向けた取組みを強化していく中で、産業が直面する著しい変革に対する準備の度合いに関するプロキシの役割を果たすように設計されている。表の下部に位置している企業は低炭素化の移行に対する準備の度合いが比較的低いという評価を受けている。

図1：一覧表

電機設備

ランク	企業	ティッカー	国	平均時価総額06/17-05/18(10億米ドル)	リーグテーブル加重順位	移行リスク順位	移行機会順位	気候ガバナンス・戦略ランク
1	シュナイダー・エレクトリック	SU FP	フランス	50.3	2.49	1	2	1
2	三菱電機	6503 JP	日本	34.3	2.63	2	1	2
3	ABB	ABBV VX	スイス	54.0	3.90	8	3	5
4	Eaton	ETN US	米国	34.5	4.50	4	5	4
5	ジョンソン・コントロールズ・インターナショナル	JCI US	米国/アイルランド	36.0	4.82	3	8	3
6	日本電産	6594 JP	日本	40.3	4.92	5	4	6
ウェイト						30%	45%	25%
出典:CDP								

産業コングロマリット

ランク	企業	ティッカー	国	平均時価総額06/17-05/18(10億米ドル)	リーグテーブル加重順位	移行リスク順位	移行機会順位	気候ガバナンス・戦略ランク
1	Vestas	VWS DC	デンマーク	16.8	2.35	1	2	1
2	シーメンス	SIE GR	ドイツ	116.2	3.01	3	1	2
3	ハネウエル	HON US	米国	110.1	3.49	4	3	3
4	川崎重工業	7012 JP	日本	5.5	4.54	2	6	5
5	三菱重工	7011 JP	日本	13.1	4.63	7	4	6
6	ゼネラル・エレクトリック	GE US	米国	172.0	4.69	6	5	7
7	Wärtsilä	WRT1V FH	フィンランド	13.1	5.17	5	7	4
ウェイト						30%	45%	25%
出典:CDP								

重機

ランク	企業	ティッカー	国	平均時価総額06/17-05/18(10億米ドル)	リーグテーブル加重順位	移行リスク順位	移行機会順位	気候ガバナンス・戦略ランク
1	CNH工業	CNHI US	米国	17.1	2.80	2	3	2
2	クボタ	6326 JP	日本	22.3	2.87	1	1	5
3	日立建機	6305 JP	日本	7.2	3.42	7	2	6
4	ディア・アンド・カンパニー	DE US	米国	45.5	3.72	6	4	3
5	日野自動車	7205 JP	日本	7.0	3.96	4	5	4
6	コマツ	6301 JP	日本	30.8	4.25	3	6	1
7	PACCAR	PCAR US	米国	24.1	5.43	5	7	7
ウェイト						30%	45%	25%
出典:CDP								

